

よし里人いひ傳へたり、まことに此わたり、古は北の方は難波堀江につゞき、東は大和川、南西は百濟川、そのほかも小川共多く流れあひて、廣き沼江にて有しとおぼしく、難波の古圖のさまも、然見えたり、又今此里人の語るをきくに、此村のみ地高く、ほとりはいづ方もいづかたも地ひきし、井などほれば、葦の根具のからなどいづといへり、かくて此ところ、かのしはつ山の坂路より北にあたりて、よきほどの見わたしなれば、島こぎかくるたなし、小船とはよめるなりけり。

〔擁書漫筆〕二京都空也堂の叩鐘の銘に、天曆十年伊丹住貞俊作と見ゆ、こは空也上人のことおほせて鑄させられし也、今も攝津國伊丹の里より、廿町ばかり西北に、鑄物師村あり、昆陽のちかきわたりなれば、昆陽寺の鑄物師が子孫など、世々こゝには住たりけん。

〔西大寺文書〕一注進 西大寺所領諸庄園現存日記事

合略○中

一顛倒庄々略○中 攝津國 豊島郡佐伯村三十町略○中 已上二十七處、依流記公驗明白注進之

右依宣旨注進如件

建久二年五月十九日名○署

〔石清水文書〕一茨木長隆領知證狀寫

攝州島下郡溝杭村内本領并所々散在田畠小西分寺庵被官人等別紙在封裏事任當知行旨被成

御判上旨彌領知不可有相違由候也、仍執達如件

天文十四年 八月廿六日

長隆 花押

溝杭龜松九殿

〔和漢三才圖會七十四〕東生郡或用成字